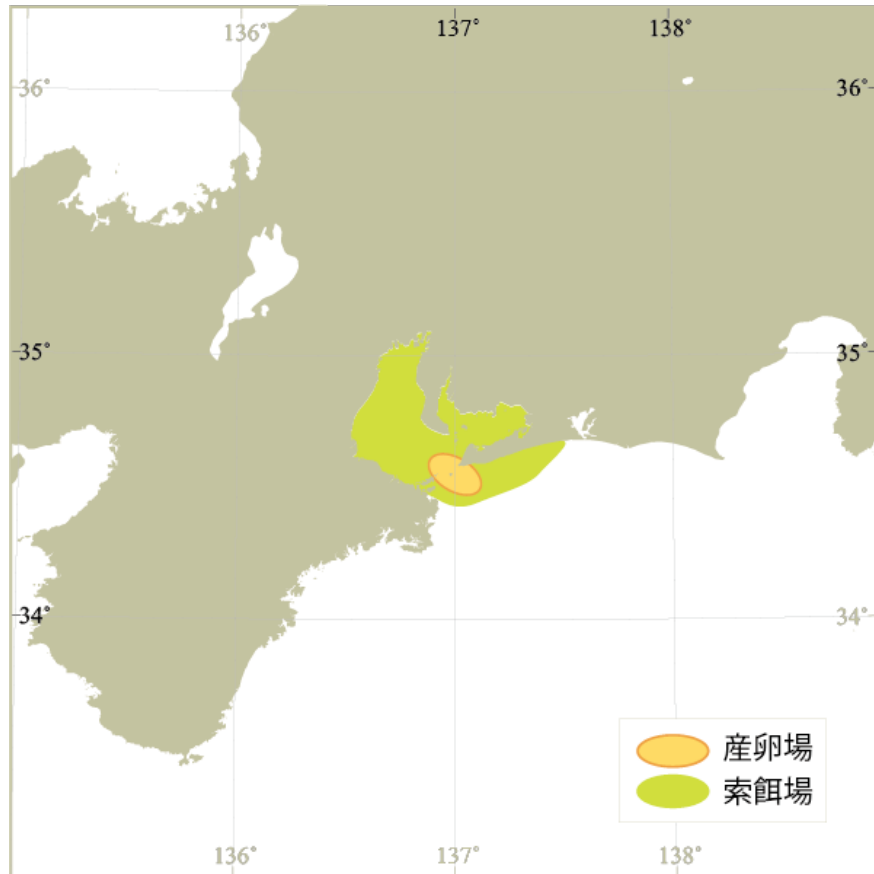




イカナゴ伊勢・三河湾系群 令和4年度資源評価結果

生物学的特性

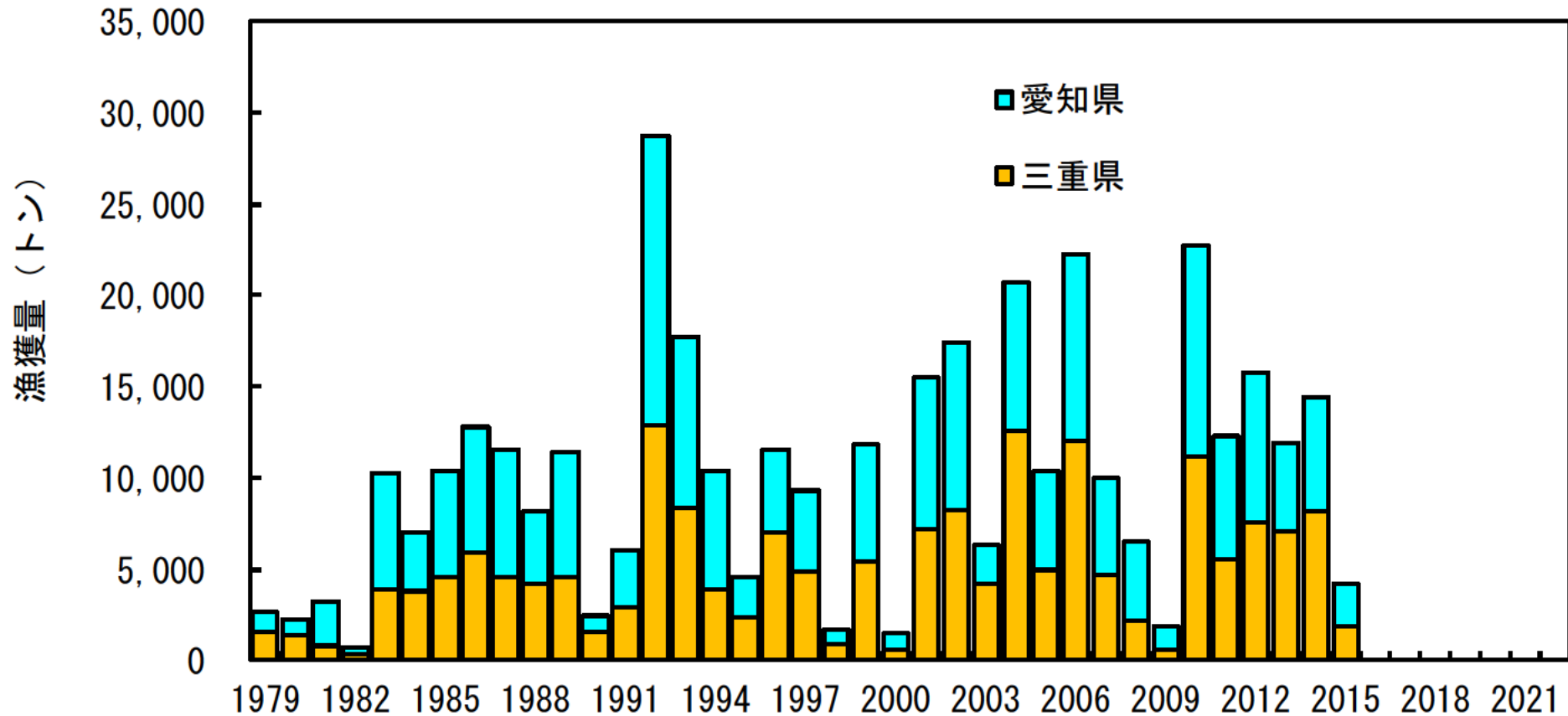


生物学的特性

- 寿命：2～3歳
- 成熟開始年齢：1歳
- 産卵期・産卵場：12月～翌年1月、伊勢湾の湾口部付近から渥美外海の礫砂の海底
- 食性：主に動物プランクトン（カイアシ類が主体、ヨコエビ類、ヤムシ類、アミ類）、伊勢湾では加えて植物プランクトン（珪藻類など）
- 捕食者：仔稚魚期には多様な浮魚類やヤムシ類、未成魚および成魚期にはヒラメ等の底魚類

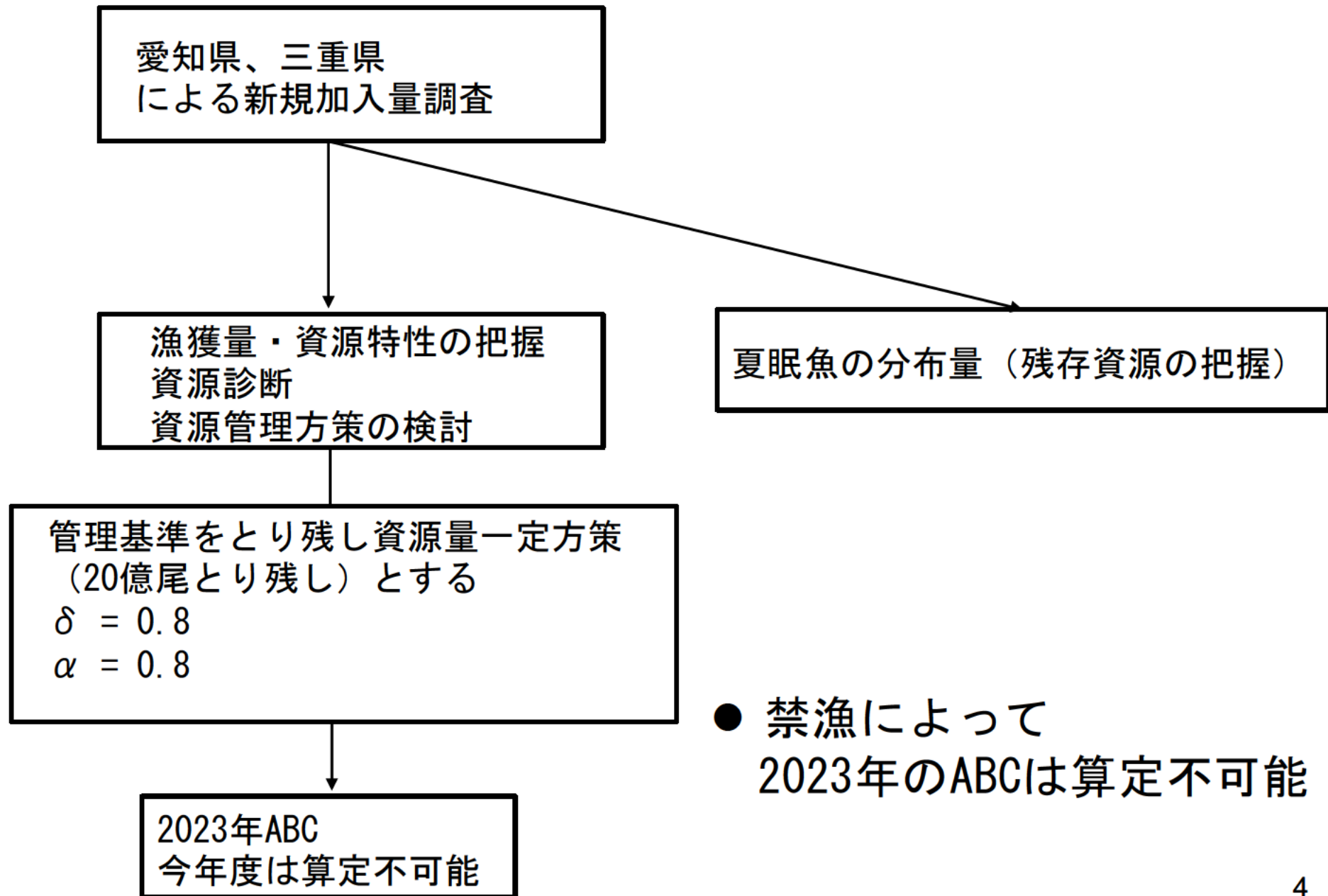
- 漁獲対象は、稚魚（シラス：2～3月）と幼魚（4～5月）
- 漁獲量の90%以上が、2～3月の漁期開始後の約2週間で水揚げされる

漁獲の動向



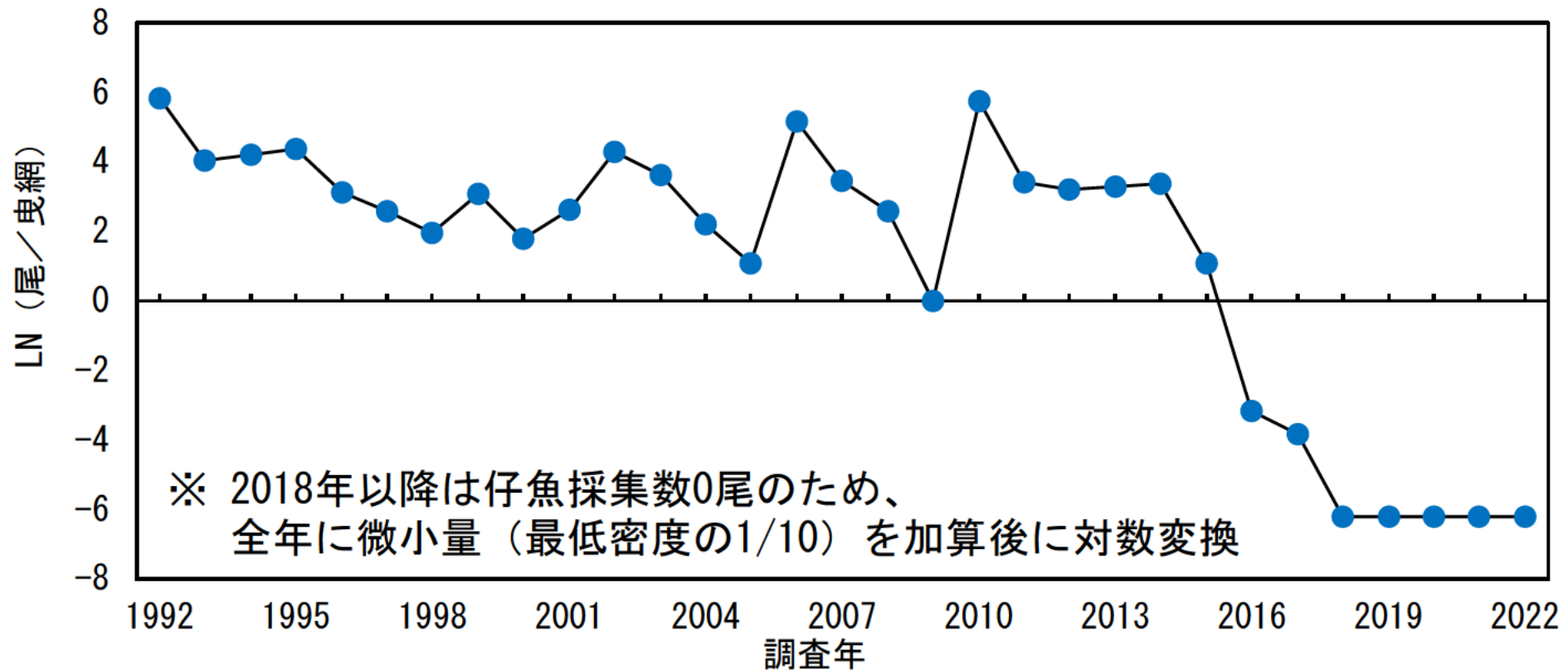
- 漁獲のあった年は主に船びき網によって漁獲されていた
- 2016～2022年は禁漁のため漁獲量は0トン

資源評価の流れ



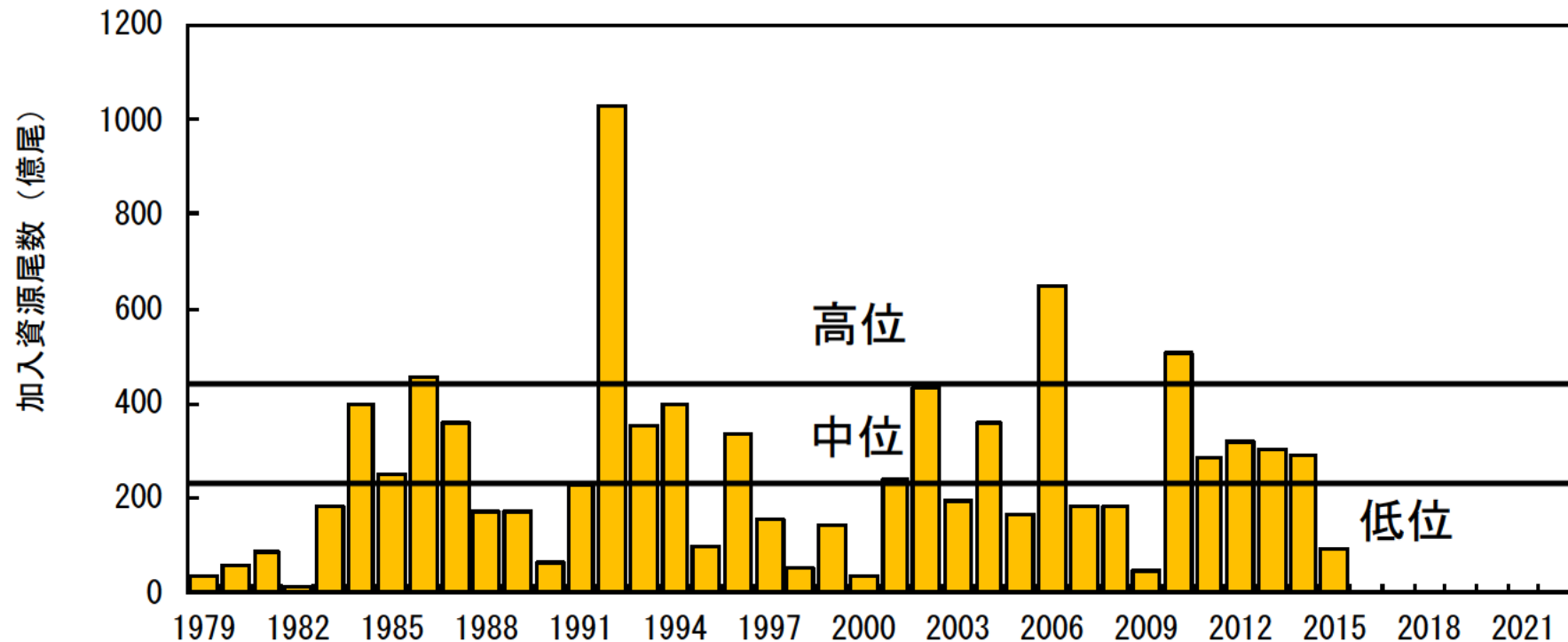
※ δ と α の値（0.8）は直近で最後にABCを算定した2016年度の標準値

資源の動向①



- 加入量調査結果を用い、資源量指標値を算出し資源の水準と動向を判断
- 2015～2017年は減少傾向が継続
- 2018年以降の加入量調査で仔稚魚は採集されず
- 2022年の水準は「低位」、動向は「横ばい」

資源の動向②



※水準の区分線は、突出して多かった1992年を除いた最大値と最小値を三等分し
低位－中位（226億尾）、高位－中位（439億尾）

- 加入資源尾数は2015年までDeLuryの方法で推定
- 14億尾（1982年）～1028億尾（1992年）で70倍以上変動
- 2015年は89億尾の加入資源尾数→水準と動向は「低位」・「減少」
- 2016～2022年の加入資源尾数は禁漁のため推定不可能

資源評価のまとめ

- 資源水準は「低位」、動向は「横ばい」
- 2016～2022年は加入量調査での仔稚魚採集数が極端に少ないか採集されず（2018～2022年はゼロ）禁漁とされたため、加入資源尾数は推定不可能であった

2023年ABC

管理基準	Target/ Limit	2023年ABC (トン)	漁獲割合 (%)	F値（現状のF 値からの増減%）
Bfishable	Target	—	—	—
	Limit	—	—	—

- 2023年ABCは算定不可能
- 親魚量20億尾以上をとり残す管理方策は維持していく必要がある